



株式会社オプトラン
2020年12月期
第3四半期決算説明会資料

2020年11月11日

2020年12月期 第3四半期決算の概要

1. 決算ハイライト(2020・3Q累計)
2. 売上高・営業利益の推移(四半期毎)
3. 受注高(2020・3Q累計/四半期毎)
4. 利益率(四半期毎)
5. 連結貸借対照表(2020・3Q累計)
6. 2020年12月期 業績予想(9月25日修正)
7. 新型コロナウイルス危機における対応
8. 新型装置の開発・受注・売上

1 決算ハイライト (2020・3Q累計)

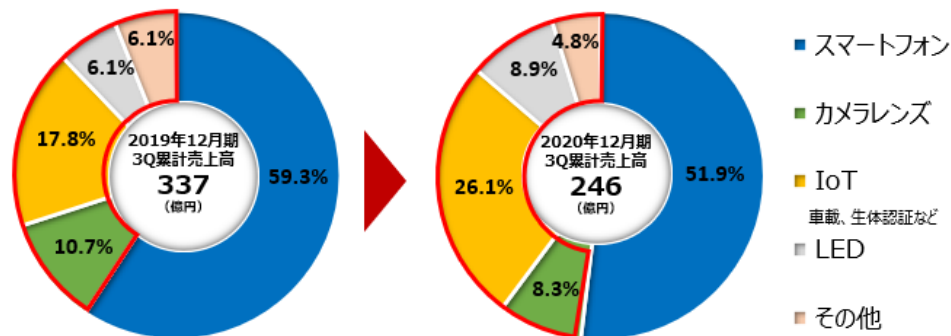
- **事業環境**：新型コロナウイルス感染拡大の影響が顕著
- **業績ハイライト**：売上高・利益率は前年同期比減。受注高は、1Qに北米スマートフォンメーカーからの受注もあり、前年同期比増。受注残高も増加

【業績比較】

(億円)

	2019年12月期	2020年12月期	前年同期比
	3Q累計	3Q累計	
売上高	337	246	△27.0%
売上総利益 (売上総利益率)	138 (41.0%)	98 (39.9%)	△29.0% —
販管費 (販管費率)	50 (14.9%)	42 (17.3%)	△15.3% —
営業利益 (営業利益率)	88 (26.1%)	55 (22.5%)	△36.9% —
経常利益 (経常利益率)	91 (27.1%)	56 (22.9%)	△38.2%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益 (親会社株主に 帰属する四半期純 利益率)	74 (22.1%)	42 (17.2%)	△43.2% —
研究開発費 (売上高研究開発費率)	22 (6.6%)	23 (9.6%)	5.4% —
設備投資額	1	7	382.1%
受注高	219	232	5.8%
受注残高	274	310	13.2%

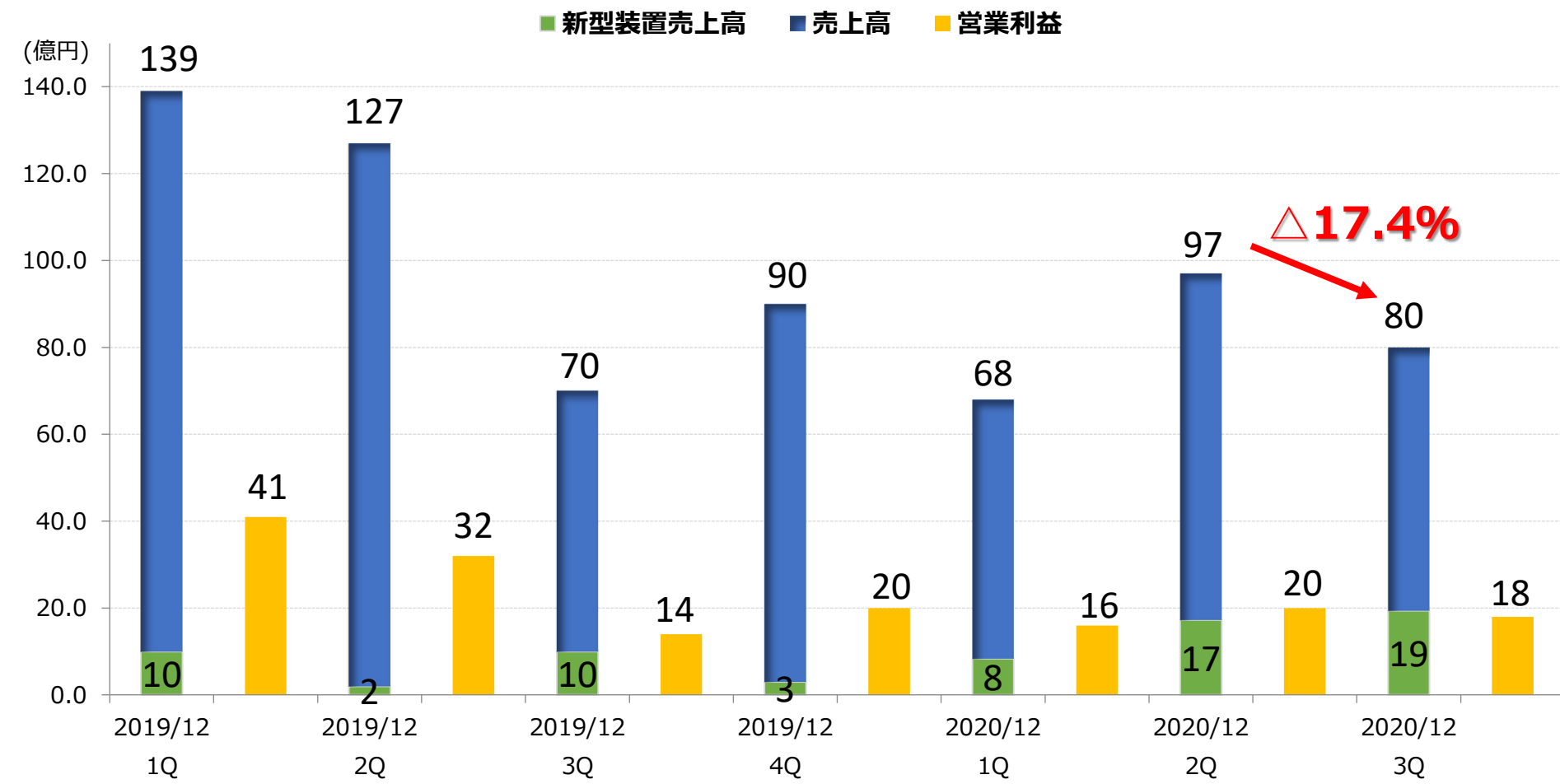
【分野別売上高】



- **IoT関連・LED等の比率アップ**

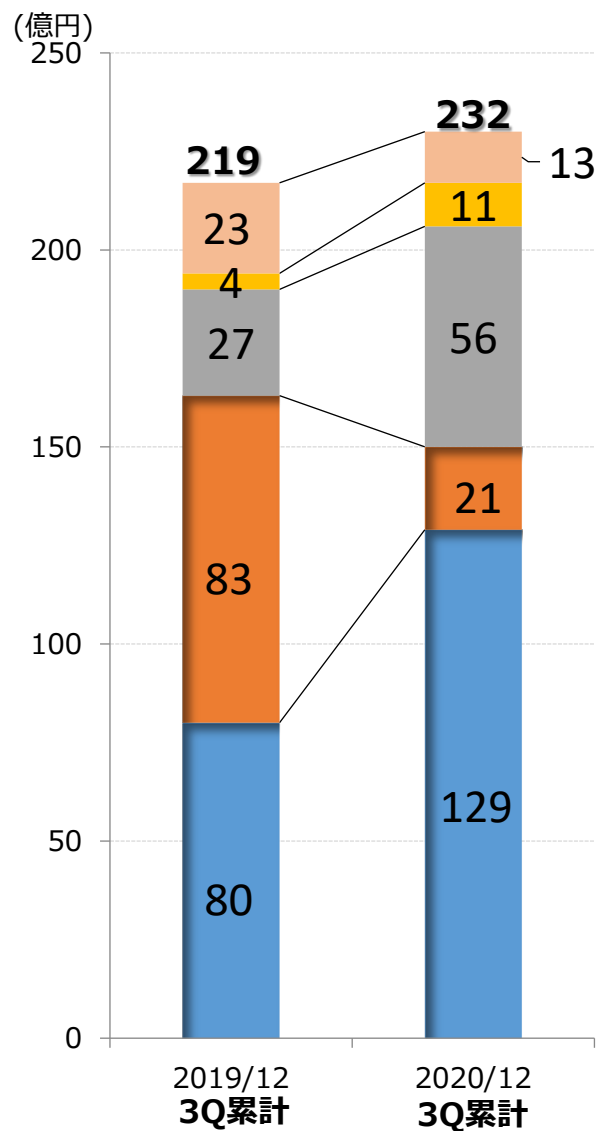
2 売上高・営業利益の推移 (四半期毎)

- 3Q売上は、前四半期比△17.4%、売上の6割が蒸着装置、3割がスパッタ装置。
- 3Q営業利益は、18億円。
- 新型装置売上は遡増

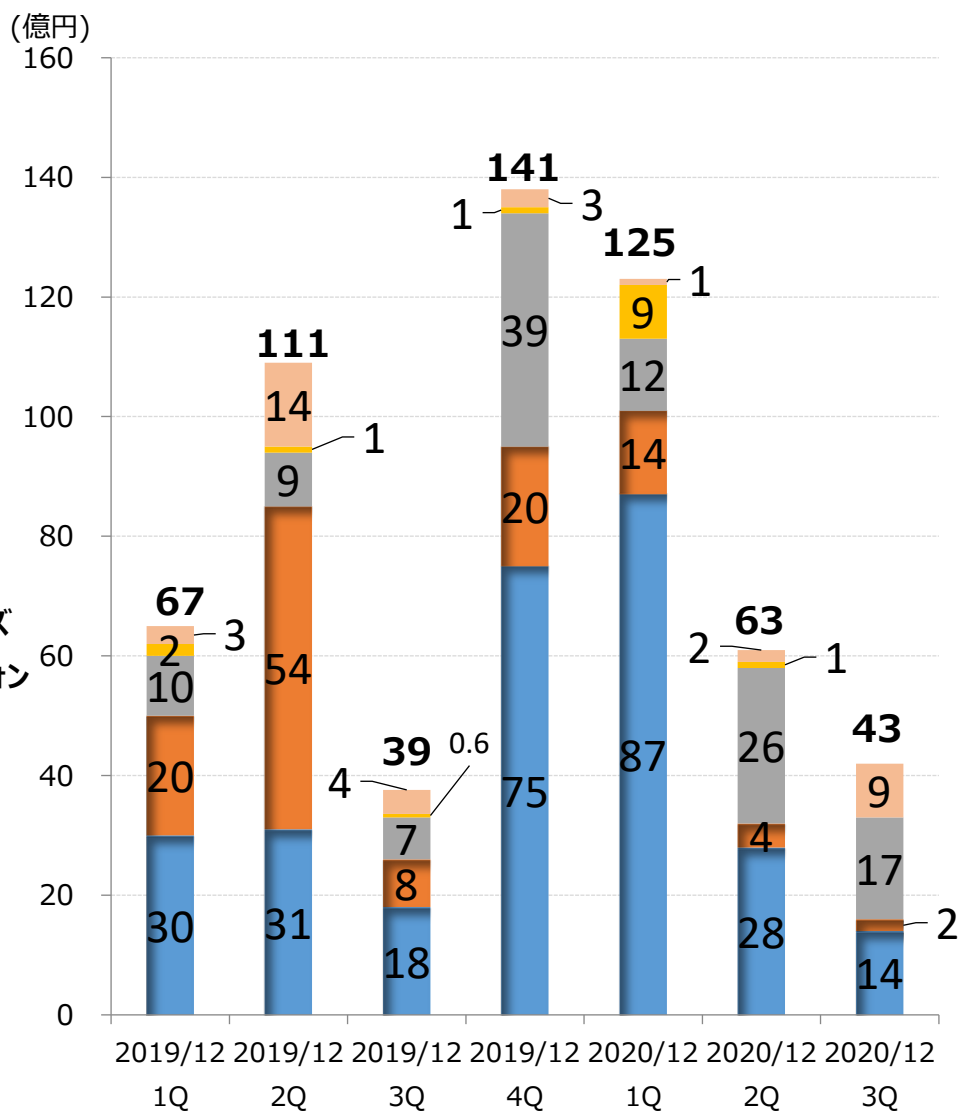


3 受注高 (2020・3Q累計/四半期毎)

● 受注高は、前年同期比で+5.8%。ただし、3Qの受注は新型コロナウイルスの影響顕著。



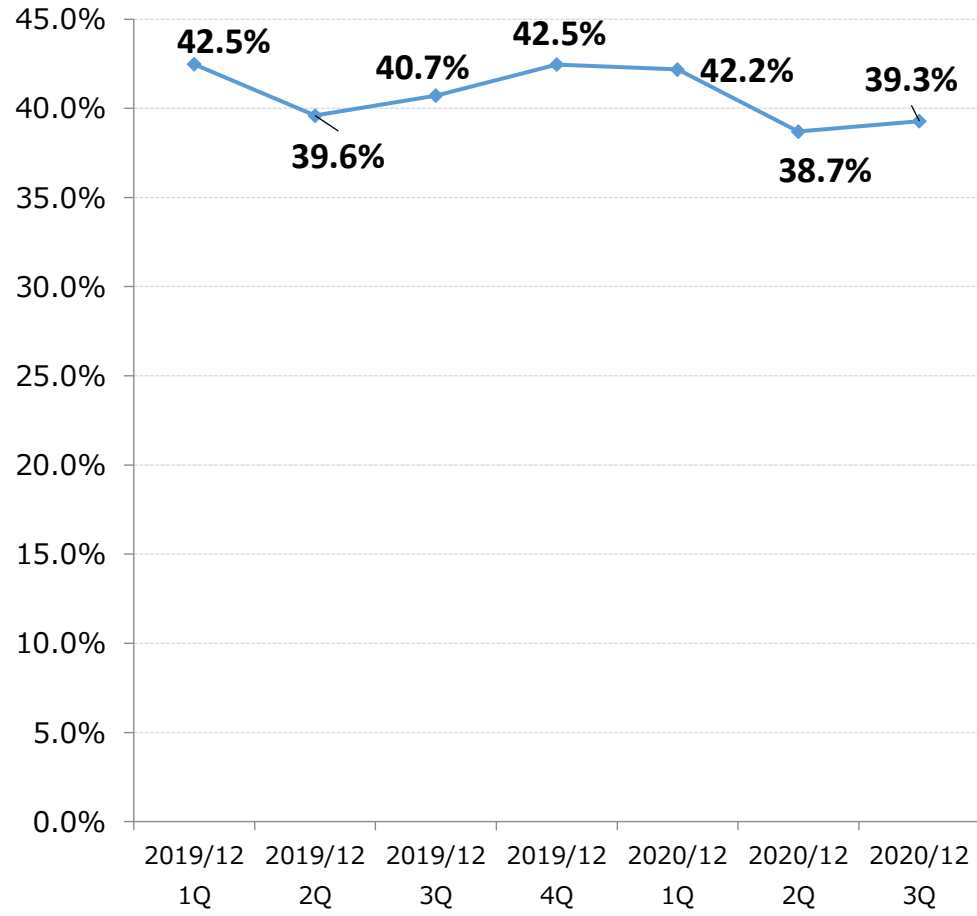
■ その他
■ LED
■ IoT
■ カメラレンズ
■ スマートフォン



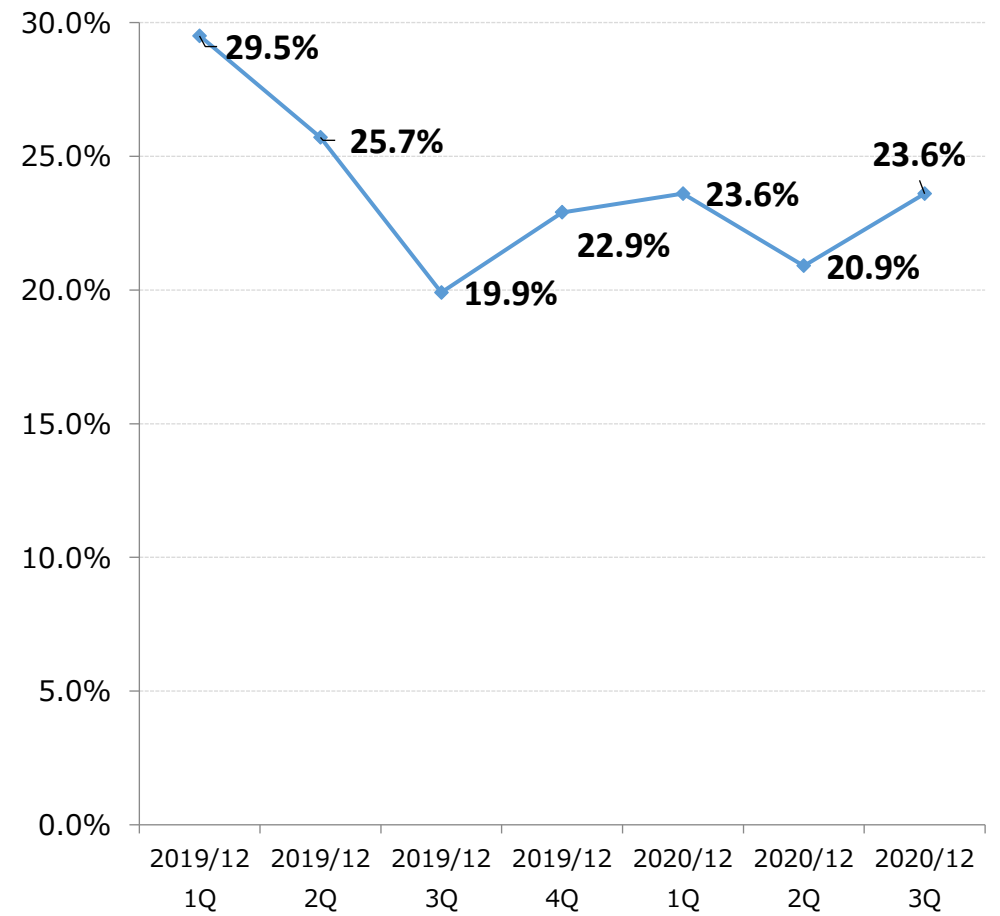
4 利益率 (四半期毎)

- 2020年3Qの売上総利益率は39.3%、営業利益率は23.6%と高水準を維持。
- 前四半期比改善はスパッタ装置原価逓減、販管費減（研究開発費）等による。

【売上総利益率】



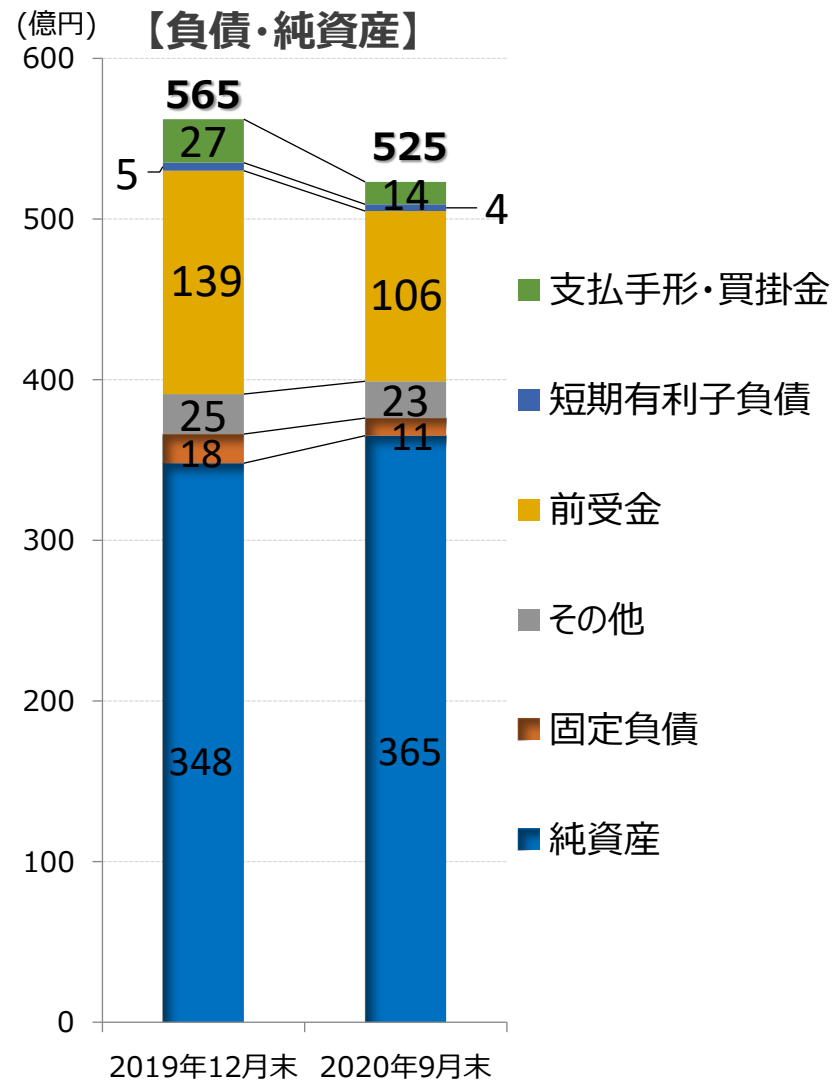
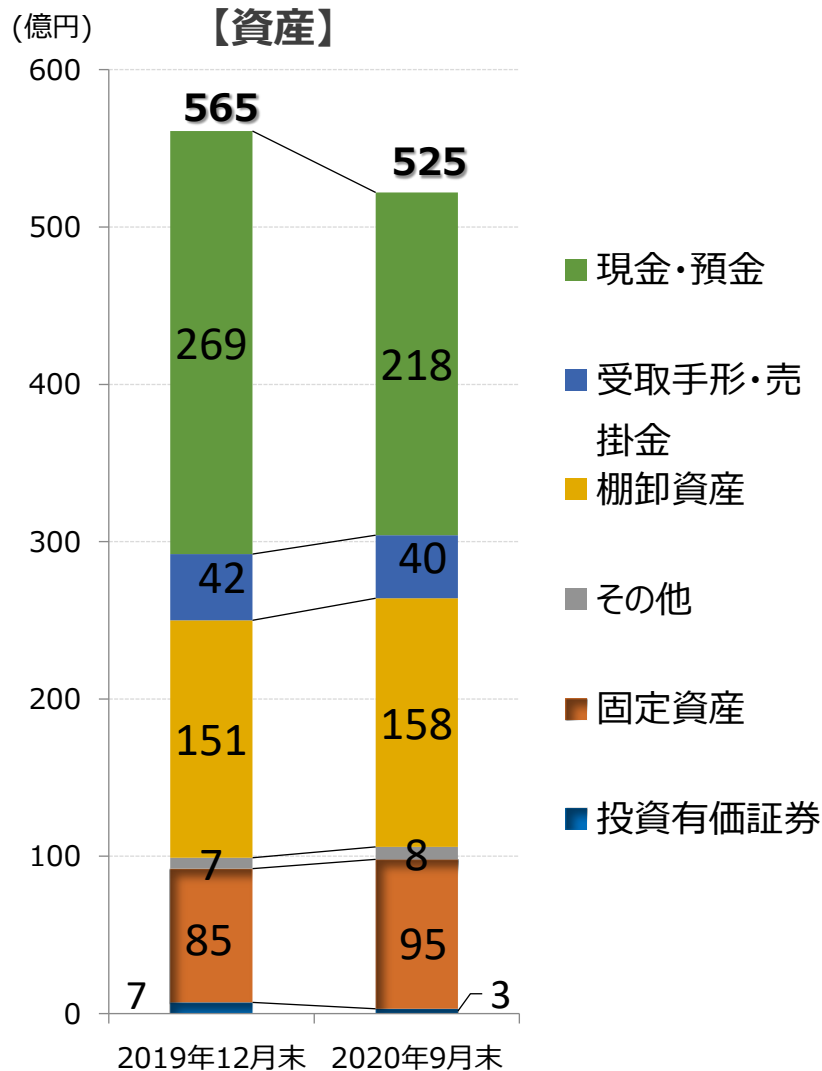
【営業利益率】



5 連結貸借対照表 (2020・3Q累計)



- 現金・預金は、50億円減（配当金支払い等のため）、前受金は30億円減（売上計上のため）、純資産17億円増加。



6 2020年12月期 業績予想（9月25日修正）



- 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、世界経済への影響が顕在化しており、最高度成膜技術を反映した弊社装置への新規発注の動きが抑制されている。
- 米国の対中国経済制裁により、一部の中国スマートフォンメーカーの生産への影響が顕在化したことや新型スマートフォン発売延期の影響もあり、弊社装置発注に影響が出たこともマイナス材料。

(億円)

	2019年12月期 実績	2020年12月期 予想
売上高	428	370
営業利益	108	94
(営業利益率)	(25.4%)	(25.4%)
経常利益	110	97
親会社株主に帰属する 当期純利益	91	71
研究開発費	31	29
1株当たり配当金(円)	60	50

7 新型コロナウイルス危機における対応

1. 基本方針

- オプトラングループの社員やその家族等すべてのステークホルダーの安全と健康を最優先し、徹底した感染予防対策の実施。

2. 対応

- 本社・海外現地法人全拠点における徹底した感染予防対策（在宅勤務、体温チェック、国内外出張抑制）を実施し、現時点では感染者はなし。
- 営業・研究開発とも、顧客の近くに拠点を設置し、横断的に事業を運営。感染リスク対策として、一時的に研究開発プロジェクトを拠点間で移管して、開発活動のための出勤可能な体制を維持し、プロジェクト進捗遅延を最小限に抑制。

8 新型装置の開発・受注・売上

光通信向け蒸着装置 (SPOC)

弊社は 1999 年の設立直後に、光通信多重伝送用に世界最高水準の光学フィルター成膜を可能とする装置の開発に成功し、販売今回、全面的な設計・性能見直しを行い、5G で求められる高性能光学薄膜の量産を可能とし、複数社より受注を獲得し、売上計上も開始。



ALD 装置

光学成膜にALD 原子レベル積層技術 (原子層堆積法) を取り入れ、新しい成膜技術可能性を追求した、世界初の装置。スマートフォン等の広角レンズや、複雑な表面の、ミニ LED・マイクロ LED等の成膜での利用が期待されている。既に複数社より受注を獲得。



医療用 X 線 FPD シンチレータ真空成膜装置

弊社は、X 線 FPD (Flat Panel Detector) 用のシンチレータへ CsI 膜成膜を行う用途の従来装置を大幅に刷新し、高画質化、低線量化、大量生産に適した装置を完成し、受注・売上が本格化。



両面スパッタ装置 (OWLS)

基板成膜面が上向き・下向き・両面同時の 3 種類の成膜方式に対して、1 台の装置で対応可能。車載センサー、電子部品、光学部品等での利用が期待されている。複数社より受注を獲得し、売上計上も開始。



当資料に記載された内容は、2020年11月10日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

【お問合せ先】

E-mail : ir-info@optorun.co.jp

TEL : 03-6635-9487